

～ 別 院 だ よ り ～

本 願 力



大谷保育協会東北連区・東京支部真宗保育研修会

発行

真宗大谷派 本願寺横浜別院

〒234-0051

横浜市港南区日野一―十一―八

TEL (〇四五)八四一―三四三四

(http://www.yokohama-ootani.com)

「教化」は念仏の縁を結ぶこと 輪番 竹部 俊恵

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が圓成まんじょうしてから、もう二カ月あまりが過ぎました。今、私は、この御遠忌から見えて来たことは何だっ
たらうと思つています。最近、横浜別院を会場に二つの研修会が開かれ
ました。一つは、六月十五日(月)の「神奈川ブロック聖典学習会」。二つ
目は六月二十日(土)二十一日(日)の「大谷保育協会東北連区・東
京支部真宗保育研修会」です。この両研修会の講師の先生方は、そ
ろ「教化」について触られました。聖典学習会の講師安富信哉やすとみのぶ先生
(真宗教学研究所長)は、本山の「真宗教化センター・しんらん交流館」
の竣工、また、ここ横浜別院の「神奈川教化センター」と名づけた庫裏が
新築したことと言及され「教化とは、念仏の縁を結ぶことに尽きる」と述
べられました。また「仏教の教化の伝統は、対話である」とも教えてくだ
さいました。

また、真宗保育研修会の講師藤兼量ふじけんりょう先生(真宗保育研究所長・福
井大野幼稚園長)は、「教化の教は、教えを聞くこと。化は、聞いた人が
変化していくこと。センターは、そのための情報を集約し、伝達し、発信す
る中心的存在ということとです」とお教えくださいました。そして、その教化
の流れは、今、横浜別院(神奈川教化センター)にも流れていることを教
えていただいたのです。とすれば、私たちは、それらを具体化していくため
に、様々な思いを集め、それを形にし、動きにしていく作業が必要です。
別院門徒の皆さん、崇敬区域の寺族・門徒の皆さん、そして、地域の皆
さん、様々な年齢層の皆さんが願つておられること、希望しておられるこ
と、伝えればよいこと、見直せばよいこと、新しく始めればよいこと、まさに対
話し合う中で、お互いが親鸞聖人のみ教えに出遇う歩みを進めていき
たいものです。そして、横浜別院ならではの姿と動きが見えてくるよう力を
合わせましょう。

合掌

正義と悪の対立を超えて（宗務総長声明）

去る五月二十一日、真宗大谷派（東本願寺）里雄康意宗務総長は、大谷派の議会である宗議会において、「日本国憲法の立憲の精神を遵守する政府を願う」正義と悪との対立を超えて」という声明を発表しました。この声明は、仏教、わけても親鸞聖人のみ教えを日々聞きながら生きていく真宗門徒が、過ちは二度と繰り返してはならないことを、共に確かめたものです。どうか御一読いただき、現代という人間社会に生きながら、人が人を殺すことの深い悲しみの中から、真の平和を実現すべく、お念仏の教えに立ちたいと思います。

合掌

私たちの教団は、先の大戦において国家体制に追随し、戦争に積極的に協力して、多くの人々を死地に送り出した歴史をもっています。その過ちを深く慙愧する教団として、このたび国会に提出された「安全保障関連法案」に対し、強く反対の意を表明いたします。そして、この日本と世界の行く末を深く案じ、憂慮されている人々の共感を結集して、あらためて「真の平和」の実現を、日本はもとより世界の人々に呼びかけたいと思います。

私たちは、過去の幾多の戦争で言語に絶する悲惨な体験をいたしました。それは何も日本に限るものではなく、世界中の人々に共通する悲

惨な体験であります。そして誰もが、戦争の悲惨さと悪かさを学んでいるはずであります。けれども戦後七十年間、この世界から国々の対立や戦火は消えることはありません。

このような対立を生む根源は、すべて国家間の相互理解の欠如と、相手国への非難を正当化して正義を立てる、人間という存在の自我の問題であります。自らを正義とし、他を悪とする。これによって自らを苦しめ、他を苦しめ、互いに苦しめ合っているのが人間の悲しき有様ではないでしょうか。仏の真実の智慧に照らされるとき、そこに顕（あき）らかにされる私ども人間の愚かな姿は、まことに慙愧に堪えないと言わねばなりません。

今般、このような愚かな戦争行為を再び可能とする憲法解釈や新しい立法が、「積極的平和主義」の言辞の下に、何ら躊躇もなく進められようとしています。

そこで私は、いま、あらためて全ての方々に問いたいと思います。

「私たちはこの事態を黙視してよいのでしょうか」、「過去幾多の戦火で犠牲になられた幾千万の人々の深い悲しみと非戦平和の願いを踏みにじる悪行を繰り返してもよいのでしょうか」と。

私は、仏の智慧に聞く真宗仏教者として、その人々の深い悲しみと大いなる願いの中から生み出された日本国憲法の立憲の精神を蹂躪する行為を、絶対に認めるわけにはまいりません。これまで平和憲法の精神を貫いてきた日本の代表者に

は、国、人種、民族、文化、宗教などの差異を超えて、人と人が水平に出あい、互いに尊重しあえる「真の平和」を、武力に頼るのではなく、積極的な対話によって実現することを世界の人々に強く提唱されるよう、求めます。

本願寺横浜別院「同朋の会」会員募集

横浜別院「同朋の会」は、いままで女性の方を中心に活動してきましたが、今後は老若男女を問わず、親鸞聖人の教えを聞く場として、活動していこうと思います。

お話を聞くだけでなく、聞いた話をもう一度参加者同士が話し合ったり、了解したことや、体験を語り合ったりする「座談会」ももち、共に同朋の交わりを深めてまいりたいと思います。また、年に一回程度、本山や他の寺院などを巡る旅行など、楽しく開催してまいります。どうぞ、あなたの御入会をお待ちしております。

詳細については、別紙案内をご覧ください。

本願寺横浜別院にご参拝

次の通りご参拝がありました。

ありがとうございます。

四月十六日 東京一組本昌寺ご一行様

五月二十一日 高岡教区妙蓮寺ご一行様

六月四日 富山県・五輪会ご一行様

六月十三日 茨木一組福法寺ご一行様

六月十七日 大阪府茨木別院ご一行様

神奈川四ヶ組寺院・ご住職、ご門徒の声 これからの別院に期待すること③

「神奈川教化センターに願うこと」

三浦組 浄栄寺住職 蒲信一

今年四月二十六日、真宗大谷派本願寺横浜別院の「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」によつて、「神奈川教化センター」がオープンする。崇敬下の寺院としてはたいへん喜ばしく、大いに期待が膨らむ。

私は、今の寺院や若手僧侶の現状を深く憂いている。その理由は、社会的な仏教離れ寺離れが加速していること、また少子高齢化による所属門徒の消滅傾向など、寺院を取り巻く環境の悪化に対して、彼らに危機意識がほとんど感じられないためだ。

儀式作法に熱心なことを否定するつもりはない。しかし今僧侶がなすべきことは、儀式作法の練習だろうか。民衆の心をつかむ伝道・教化こそが、今まさに必要とされているのではないか。

仏教界全体を通して、危機意識は高まっていると言える。しかしその対応を見ると、檀家を囲い込んで離壇しないようにすると、合祀墓を作るとか、納骨堂を拡充するとかに限られている。それは枝葉末節であつて対応の主幹ではない。

日本は先進国の中では極端にキリスト教が少ない特異な国である。私には牧師の知り合いが多いが、彼らは伝道で日々苦勞している。それに比べて、私ども仏教僧侶はこれまで葬祭習俗の上にあぐらをかいてきた。ところが、今後は極めて厳しい状況に追い込まれるだろう。恐らく伝道で苦勞

してきたキリスト教の席卷に遇うことは間違いない。日本は仏教国は、今や風前の灯火なのだ。

この状態を劇的V字回復させる仏教教団は、真宗しかあり得ない。いや、今の仏教教団の中で教化伝道に力を持って熱を持ち、それを実現していく力を持った教団は東西本願寺しかないのである。

その極めて大切な教化伝道が、大谷派では軽んじられている。教区の伝道講習会と言つても、内容は教学研究の集まりである。教学を研鑽しさえすれば、それが自ずと伝道につながると思つている愚か者が、この教団には実に多いのである。教学の研鑽は一人一人が心にかけるべきものだ。それと伝道技術は別である。

民衆の心をつかむ教化とは何か。それはまず私一人が本願念仏の教えに出遇つた喜びと感動を深く信知し、それをきちんと系統立て、適切な言葉に整えて、民衆に届けていくことに他ならない。それは声明講習が系統立てて導いていくように、伝道技術も個人の信心を確認しながら、導いていくことが必要なのだ。それを踏まえて、私は先頃も述べたように、「神奈川教化センター」において、「神奈川伝道研究会」を起ち上げ、一年に二回ほどの伝道技術の研鑽を行い、魅力ある真宗伝道ができる人材を育てていきたい。そこで育つた若手の僧侶が、ブロック内で、あるいは教区内で未だに同朋会が結成されていない寺院等の講師を、低い法礼で受けることができれば、講師不足の解消になる。またお寺の聞法会も充実してくるだろう。

とにかく真宗寺院は、法話伝道が基本中の基本である。これまでのように、講師が我流で思いつ

きのような未整理の内容を、話法も考えずにお話するのでは、ご門徒としては「真宗の教えは難しい」というしかないのではないかと。きちんとした話法にのっとり、講師の仏法に対する感動と情熱を伝えていけば、V字回復は夢ではないと考えている。

もう一つ、「神奈川教化センター」に期待することがある。他の人の意見にもあつたが、毎週センターで「英会話教室」をやつて欲しい。その上の展開として、横浜の中心地の貸しビル等で、外国人向けの「英語による歎異抄講座」を開催するのである。この構想は、私は企画書を宗務出張所に何度も提出しているが、この企画を発案者の私に無断で勝手に計画はしたものの、いつもの決定力不足から未だに実現していない。もう宗務出張所はあてにできない。そこでスピード感のある教化事業を展開するために、「神奈川教化センター」がこれを行い、真宗会館に実行を促していくのである。

最後に、「神奈川伝道研修会」も「神奈川・英語による歎異抄講座」「英会話教室」の構想も、つまるところ教区教化のふがいなきに端を発している。横浜別院が「神奈川教化センター」の活動として、教区教化を圧倒するパフォーマンスを見せれば、それは教区教化を大きく変化させるだろう。

総じて、仏教の衰退は未法到来のきざしである。宗祖のお考えをお借りすれば、未法であるからこそ、本願念仏の教えがいよいよ顕かになるのである。よつて、私の「神奈川教化センター」への期待は、否が応にも高まっているのである。

二〇一五年度 横浜別院声明儀式研修会のご案内

【第二回】八月四日(火) 午前十時半～午後四時

【講師】竹橋 太師(本山・本願部出仕)

【内容】真宗の儀式を考える⑥

【会場】本願寺横浜別院

【参加費】千円(昼食代となります。)

間衣・輪袈裟にて、「真宗の儀式」等持参下さい。
お誘い合わせの上、ご参加下さい。

【第三回】十月一日(木) 午後一時半～四時半

【講師】佐伯朋子師(東京五組成満寺住職・准堂衆)

※女性寺族対象の研修会です。

【第四回】十二月十六日(水) 午後一時半～四時半

【講師】友松雅英師(東京二組西岸寺住職・准堂衆)

【第五回】二〇一六年一月十八日(月)

午前十時半～午後四時

【講師】鈴木友好師(本山・堂衆)

※詳細につきましては、後日ご案内させていただきます。

行事予定

七月

定例法話 午後一時半より

九日(木) 川崎組善能寺 今井 亮顕 師

二十八日(火) 横浜別院列座 家本 久和 師

孟蘭盆会法要 午後一時半より

十三日(月)～十五日(水)

法話 亀井 敏 師「清沢満之記念館常任理事」

八月

定例法話 午後一時半より

九日(日) 湘南組法閑寺 大住 誠 師

二十八日(金) 横浜別院輪番 竹部 俊恵 師

※七月十八日、八月十八日はお休みです。

暁天講座(初めての親鸞II)

日 時 八月二十二日(土) 午前六時半より

講師 沙加戸弘師(大谷大学名誉教授)

内容 「親鸞聖人の絵解きと法話」

日 時 八月二十三日(日) 午前六時半より

講師 安富歩師(東京大学東洋文化研究所教授)

内容 「私が「女装」するのは方便か?」

場 所 別院本堂 参加費 無料 ※軽食あり

編集後記

御遠忌が厳修されてから、少しずつですが、平常のお勤めに戻ってきました。横浜別院「神奈川教化センター」を利用しての講座や研修会、コンサートなども開催されまして、改めて「場」の大切さを気付かされました。

先日、真宗会館で宗会報告会が開催されて、聴講してきました。その中で、本山が所有する「高倉会館」という施設の話がありました。老朽化により、閉館するという話ですが、八十年以上の歴史と地域の方々の開法する場所として大事にされてきました。

その役割を引き継ぐ施設として「真宗教化センター」という素晴らしい施設が京都に誕生しました。

しかしながら、その「場」から移動したということには感慨深いものがあります。

(家本)